

機械クラブだより ◆第5号◆

Mar. 1, 2014

○ご挨拶とお願い-----	P.1
会長 M⑫ 藪 忠司、 財務部会長 M⑰ 柄谷祐司、 総務部会長 M⑫ 西下俊明	
○平成 25 年度見学会「住友電気工業(株)伊丹製作所」-----	P.2
文責：見学会部副部会長 M(30) 尾野 守	
○平成 25 年度機械クラブ六甲祭協賛講演会-----	P.4
講演題目：「人工心臓に生きる機械工学」	
講 師：機械工学専攻 山根 隆志 教授	
場 所：海事科学部 4 号館 4301 教室	
併 催：学生の自主活動報告(レスキューロボットチーム、学生フォーミュラチーム)	
○平成 25 年度「若手研究者は今」講演会-----	P.6-
講演Ⅰ.「流体の高分解能計測法の開発と応用に関して」(機械工学専攻 白井克明 助教)	
講演Ⅱ.「擬態語による感性的な動くロゴマークのデザイン」(機械工学専攻 山田香織 助教)	
○進藤明夫先生米寿のお祝いの会 (報告)-----	P.8
○第 158 回「機械クラブゴルフ同好会(KTCMG)」開催報告-----	P.9
○クラス会だより-----	P.9-
・ M⑪卒業 50 周年記念クラス会・・・P.9	・ M⑭クラス会・・・P.10
・ M⑯クラス会・・・P.11	・ M⑱クラス会・・・P.11
・ M(21)・P②合同卒業 40 周年記念クラス会・・・p.12	
○KTC 機関誌 78 号掲載記事の概要紹介-----	P.13
○平成 25 年機械クラブ年会費納入者名簿-----	P.14

◆ご挨拶とお願い◆

I. ご挨拶とお願い

機械クラブ会長 M⑫ 藪 忠司

春の訪れが待ち遠しいこの頃ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。日頃は機械クラブの活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

単位クラブへの KTC 機関誌割当ページ数が 2 ペ

ージに削減されたのを機に、それを補う目的で立ち上げたこの“機械クラブだより”も第5号となりました。今回はクラス会報告が多かったため、クラス会報告を KTC 機関誌 78 号と“機械クラブだより”に分けて掲載させて頂いております。ご了承下さい。

早いもので、私の機械クラブ会長としての任期は 3

月の総会までとなりました(KTC 理事長の仕事は来年度までです)。会長として甚だ力不足であったことを反省しておりますが、ここまでのどり着きましたのも皆さまのご支援とご協力のお陰である、と感謝しております。

今後は新会長と新体制への更なるサポートをよろしくお願い致します。

なお、これまで機械クラブが続けてきた講演会や見学会等の行事の開催や、母校と学生への支援は来年度も継続されますが、この活動を支えている年会費の納入が年々減少しているのは辛いことです(この冊子の最後に年会費納入者一覧を掲載しておりますので、ご覧下さい)。機械クラブの活動を円滑に推進するためにも、一人でも多くの皆さまに年会費やご寄付の納入をお願い致したく、この場を借りてよろしくお願い申し上げます。

II. 年会費納入等のお願い

財務部会長 M⑦ 柄谷 祐司

平成 25 年度は、多くの方々に年会費納入のご協力を頂き、また寄付金を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

神戸大学機械クラブの活動詳細はホームページ

に掲載していますが、同窓生皆様方の年会費、寄付金に支えられた運営であり、活動内容をより充実させるためにも新卒業生をはじめ、同窓生全員のご理解とご参加をいただき、年会費納入や寄付金を賜りますようご協力よろしくお願い申し上げます(年会費は 2,000 円。複数年一括納入をお勧めします)。

III. Eメールアドレス登録のお願い

総務部会長 M⑩ 西下 俊明

機械クラブの活動のようすを会員の皆さまに直接お知らせする“メール配信システム”の運用は、早いもので8年目に入りましたが、メールアドレス登録者は約 1,340 名で頭打ちの状態です。未登録の皆さまにおかれては、お手数ですが、メールアドレスを郵便振替用紙にご記入頂くか、機械クラブ(ktem@kobe-u.com)まで E-mail でご連絡下さるようよろしくお願い申し上げます。

平成 25 年度見学会「住友電気工業(株)伊丹製作所」

毎年1回開催されている機械クラブの見学会が去る9月24日に実施された。今年、住友電気工業(株)伊丹製作所を訪問し、住友電工焼結合金 伊丹工場(以下、焼結製品工場)、住友電工ハードメタル ダイヤ製品工場、同ツールエンジニアリングセンター(I-TEC)、SEI テクニカルトレーニングセンター(TTC)の計4施設を見学させていただいた後、角谷均殿(アドバンストマテリアル研究所グループ長)のご講演を頂いた。本見学会は機械工学専攻との共催で実施しており、今回は教員・学生10名を含む、37名が参加した。

◆ 伊丹製作所の歴史・特長

一富田邦洋執行役員様[M(26)]よりご説明

昭和16年3月開所。面積は365千m²(11万坪)従業員は約2700名。今回は住友電工ハードメタル(株)、住友電工焼結合金(株)を中心に見学させて頂いたが、その他に、特殊線事業部(プレストレストコンクリート鋼線やタイヤ用スチールコード生産)、(株)アライドテック(ヒートシンク、ヘビーメタルなどの機能性部品生産)、半導体事業部(GaAs、InPなどの化合物半導体ウエハ生産)があり、更に教育施設として、技

術職向けのテクニカルアカデミーや住友電工全グループ向け施設のテクニカルトレーニングセンターがある。

◆ 工場見学：

①焼結製品工場②ダイヤモンド製品工場③ツールエンジニアリングセンター（I-TEC）④テクニカルトレーニングセンター（TTC）の4施設を見学。いずれの施設も安全通路と作業通路が明確に区分され、5Sも行き届き、サンプル展示やパネル展示、液晶ディスプレイを用いて判りやすく説明頂いた。

①焼結製品工場：住友電工焼結合金（株）の取り扱っている製品の90%以上が自動車用部品。国内では伊丹と岡山県（高梁）の2拠点で生産され、伊丹工場は新技術の開発工場、岡山工場は量産工場（1拠点での生産量は世界トップクラス）の位置付けである。

焼結製品の製造工程は、配合→成形→焼結→後処理→検査となっている。成形工程では、多数のプレス装置を配置しており、反力制御を使用し、粉体の密度向上を図るCNCプレスも配置。焼結工程では、プラネタリキャリアなどで、焼結と部品のロー付けを同時に行う”焼結ロー付け”技術も有する。検査工程では、探傷試験があり、更に製品の評価装置として、オイルポンプ試験機（耐久評価用、性能評価用）があり、ユーザーと協業して、評価が行われていた。

②ダイヤモンド製品工場：住友電工ハードメタル（株）の主力製品である切削工具に用いる、多結晶および単結晶ダイヤモンド（スミダイヤ、スミクリスタル）、立方晶窒化ホウ素（スミボロン）の素材生産を行っている。

③伊丹ツールエンジニアリングセンター（I-TEC）：住友電工ハードメタルのユーザー向けサービス、特に研修（切削技術）—テストカット—技術相談（テクニカルサポート）の為に設立された施設（伊丹以外に国内4カ所 海外5カ

箇所有り、世界で計10カ所）。そのために各社の工作機械が多数設置されている。昨年度の来訪者は合計で3,225人、伊丹のみで約1,000人が利用。加工実演では、ナノ多結晶ダイヤモンド工具（スミダイヤバインドレス）を用いて、超硬合金を極限の平滑加工（表面粗さ0.008ミクロン）する様子が紹介された。新材料に対する工具の特性評価のために、新しい設備をタイムリーに導入する必要がある、とのご説明であった。

④テクニカルトレーニングセンター（TTC）：2008年開所。3階建ての施設で、ものづくり教育や安全教育用施設。これまでの座学中心の研修でなく、体験型の研修を行っている。屋上には太陽光パネルを設置。

◆ ご講演

研究統轄本部 アドバンスドマテリアル研究所
無機材料研究部 角谷 均 グループ長様

バインドレス多結晶ダイヤモンド製品の開発を手がけてこられた角谷グループ長様のご講演を拝聴した：

工業用ダイヤは1978年に開発した多結晶ダイヤモンド（スミダイヤ）から単結晶ダイヤモンド（スミクリスタル）へ進化し、更に超高压（14～18GPa）、超高温（2100～2300℃）の環境下でグラファイトからダイヤモンドへ直接変換焼結する技術開発により、等方性を有するスミダイヤバインドレスを今回開発。

これまで、工具の耐久性と硬さは相反する特性であったが、このバインドレスはその両方を向上さ



せることができる画期的な製品であり、これを用いた「ナノ多結晶ダイヤモンド工具」は日刊工業新聞社の2012年「第55回十大新製品賞」において、「本賞」を受賞された。

◆ 懇親会

懇親会は伊丹製作所社員倶楽部（GENKIクラブ）の3Fにて開催。島一雄様、機械クラブ藪会長のご挨拶の後、見学会の話題、各人の近況など、見学の案内を務めていただいた神戸大学工学部

出身の皆様を交え、和気藹々と親交を深めることができた。

以上の通り、平成25年度の機械クラブ見学会は関係各位のご協力のもと盛会裏に終了した。今回お世話になりました住友電気工業株式会社伊丹製作所の皆様に、改めてこの場をお借りし、深く感謝致します。

（見学会部会 M(30)尾野 守）

平成25年度機械クラブ六甲祭協賛講演会（報告）

平成25年11月9日（土）、海事科学部4号館4301教室

恒例の六甲祭協賛講演会が開催されました。今回は六甲祭が深江キャンパスで開催ということで、講演会も海事科学部4号館で行われました。例年通り、山根先生の講演会に加えて、学生の自主活動であるレスキューロボット、学生フォーミュラの活動についてそれぞれ長谷川君、船橋君から報告がありました。

◆講演会…「機械工学先進研究」紹介

（司会：白瀬 敬一 教授）

○講演題目：人工心臓に生きる機械工学

○講師：山根 隆志 教授

（工学研究科 機械工学専攻）

○講演要旨：

山根教授が取り組んでおられる人工心臓開発の最前線と、これまでの成果と今後の課題について、分かりやすくご講演いただいた。ご講演は以下のように9つのパートに分けられていた。1. 人工心臓の種類、2. 軸受形式の選択、3. ポンプ形式の選択、4. ターボポンプの原理、5. 血液適合性の工学評価、6. 流れの可視化実験、7. 模擬血栓



試験、8. 動物実験、9. 神戸大学における研究課題

前半は日本における心臓疾患患者数の統計から人工心臓の必要性を説くに始まり、人工心臓の基礎とこれまでの発展の経緯、またポンプ設計におけるポイントを述べられた。本講演案内ページの要旨にもあるように、「人工心臓は空気/電磁拍動型から小型回転型へと変化し、さらに非接触回転軸受を導入して長寿命化を実現するという技術革新を遂げた」。この技術革新により、心臓疾患をもつ患者が就労・就学できる療養生活が可能となったことの意義は大きく、今後のますますの発展が期待される。

後半は山根教授が開発してきた事例の紹介であり、いかにして血栓形成や溶血の起こらない人工心臓ポンプを開発するか、という視点から研究例をご紹介いただいた。血液はある範囲のせん断速度で流れると血小板の凝集による血栓あるいは赤血球損傷による溶血を起こす。レーザー計測などを駆使してポンプ内流れを把握し、血栓・溶血を防ぐポンプ設計についてご説明いただいた。

医学サイドと連携しながら、流体力学的視点から問題に取り組まれており、医工連携において工学が果たす役割の重要性がよく理解できた。最後

に現在独自に進められている研究、他機関との共同研究についてご紹介いただいた。

(報告者 M(50) 林 公祐)

◆「学生の自主活動」報告(司会：白瀬敬一 教授)

◇レスキューロボットチーム

(報告者：長谷川 正悟 君)

神戸大学ロボット研究会「六甲おろし」は、8月10日(土)と11日(日)に神戸サンボーホールで開催された、第13回レスキューロボットコンテストに参加しました。10回目の参加と



なる今年は、「未来を見据えたレスキュー」というコンセプトのもと、実際の救助活動を想定した3機のロボットを製作しました。1号機「Crocus」と2号機「Iris」は、ホールディング機構を用いてガレキの倒壊を防ぎつつ、下敷きになっている要救助者を機体内に収容します。3号機「Ixia」は、倒壊した家屋の2階部分から、小回りの利く子機を用いて要救助者を収容する機体で、高所での救助を想定して製作しました。

加えて、被害状況の迅速な集約と伝達を目的とした3Dマッピングシステムや、要救助者の声を聞き取る音声認識システムを新たに開発しコンテストに臨みました。

しかし、ヒューマンエラーに回路の不具合が重なり、本選のファイナルミッションに進出できず、非常に悔しい結果となりました。

KTCMの皆様には、我々の取り組みに日頃よりご理解・ご援助をいただき、ありがとうございます。現在は、今回の反省を生かしたレスキューを目指して活動を行っておりますので、今後も温かいご支援をよろしくお願いいたします。

◇学生フォーミュラチーム

(報告者：船橋 駿斗 君)

私達、神戸大学学生フォーミュラチーム FORTEK は、2013年9月初旬に開催されました第11回全日本学生フォーミュラ大会に参加いたしました。

2003年に発足しました FORTEK も今年で10年目を迎え、更



に厚いご支援を頂いている次第であります。前回大会、第10回大会ではチーム史上2度目の全種目完走を達成しチーム史上最高順位である総合順位10位を獲得する事が出来ました。これらをふまえて今年度大会では「総合順位6位以上」を掲げ、プロジェクトを進めて参りました。昨年度のプロジェットの反省として、マシンの早期シェイクダウンにこだわり、各パーツの設計の見直し、プロジェクト管理の徹底を行い、主要構造体であるフレームにはレーザーカットを採用し、製作精度の向上、製作時間の減少を達成しました。その結果、チーム最速である6月1日にシェイクダウンを達成する事ができ、テスト走行でも過去最長の走行距離を稼ぐ事が出来ました。

本大会では、静的競技ではメンバーの審査前日深夜に及ぶ準備もあり、昨年度と比較して改善すべき点もあるものの向上がみられました。限りある時間内で最大限の整備を行い、送り出した耐久走行では最終ラップにおいて、エンジンのオーバーヒートによりリタイヤを喫してしまい、2年連続の全種目完走は達成する事ができませんでした。

どれだけテスト走行をおこなったとしても常に本番を想定して走り込み、準備を行う事ができなければ結果はともなわないと感じました。

今年度の結果を一つの糧として、来年度以降さらに成長できるようメンバー一同努力して参ります。

最後に、チーム発足当時より、私たちのチームが多大なご支援を頂いております KTCM 様から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。今後とも神戸大学学生フォーミュラチーム FORTEK をよろしくお願い致します。

平成 25 年度機械クラブ「若手研究者は今」講演会(報告)

平成 25 年 12 月 14 日(土) 15:00~17:00 工学部 C1-301 講義室

白井克明助教と山田香織助教を講師に迎えて、恒例の「若手研究者は今」講演会が開催されました。講演会終了後は、講師のお二人も参加され、LANS BOX で和やかな雰囲気のもとで懇親会が開催されました。

----- + ----- + -----

◆講演 I :

流体の高分解能計測法の開発と応用に関して

(講師：機械工学専攻 白井 克明 助教)

【講演要旨】

前半はレーザーを用いた流体の高空間分解能計測についてお話をさせて頂きました。

熱流体は、身近な自然現象から産業利用に至るまで様々な場面に存在し利用されています。

産業においては更なる品質向上を目指した高度な熱流体制御のため、研究開発においては複雑現象の解明のため、計測を行う必要があります。

熱流体現象には幅広いスケールが存在し、惑星のような巨大なものから針の先のようなマイクロ・ナノに至る小さなスケールまであります。着目している現象を的確に把握するためには、そのスケールでの熱流体挙動を把握する必要があり、場合によっては高い空間分解能を要する計測場面が存在します。小さなスケールの運動を、高分解能でしかも物理的プローブを挿入することなく非接触で計測するには、特にレーザーを用いた光学計測が有効です。

流体のレーザー流速計に関して解説し、光学計



測における空間分解能の話をさせて頂きました。光学計測では、一般に開口数 (NA 値) を上げて焦点をできるだけ小さく絞ることで高分解能を実現します。ところが、干渉縞を利用するレーザードップラー流速計 (LDV) の場合には、NA 値を高めようとレーザービームを小さく絞っていくと逆に干渉縞の不均一性が増して流速計測の不確かさが増大するという問題があります。つまり、空間分解能と速度分解能には一定の関係があり、それが高空間分解能計測を非常に難しくしています。

次に、速度プロファイルセンサーという新しい計測手法をご説明させて頂きました。この方法は同じく光の干渉を利用しますが、図のように 2 種類の干渉縞を用いることにより、従来のレーザードップラー流速計では困難だった空間分解能と速度不確かさの問題を解決しました。原理は、平行な

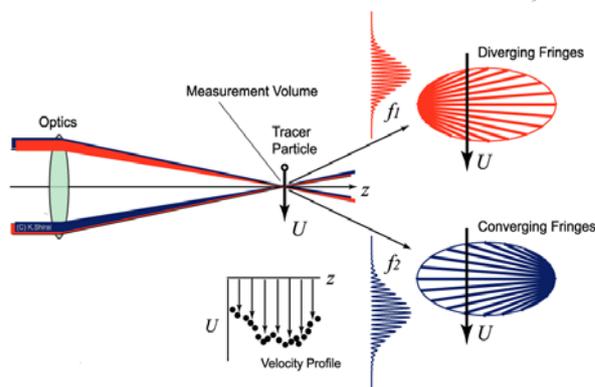


図. 速度プロファイルセンサーの原理

干渉縞を用いる従来の方法に換えて2組の扇形の干渉縞を形成させ、そのドップラー周波数比が計測体積内の軸方向位置に依存することを利用します。これにより、測定体積内に空間分解能を実現しています。典型的なプロファイルセンサーでは、空間分解能5ミクロン、速度分解能0.5%程度が達成可能です。

この速度プロファイルセンサーの応用例として、層流境界層の速度分布および細線前方の加速度分布、ハードディスクドライブ（HDD）モデル内部の複雑流れに関する計測例などご紹介させて頂きました。特にHDD流れでは、これまで難しかったディスク・シュラウド狭隘部の流れ挙動が高分解能計測によって可能になったことと、乱流速度成分の計測結果は空間分解能に大きな影響を受けることなどが分かってきました。

後半は、数年に渡ったドイツでの研究生活に関する話をさせて頂きました。最初に行ったハノーファー・レーザー研究所（Laser Zentrum Hannover, e.V.）およびその後のドレスデン工科大学（Technische Universität Dresden）での経験の一端をご紹介させて頂くとともに、国や文化、分野を乗り越えた仕事の難しさと醍醐味など、お話しさせて頂きました。また、その中で学んだことをご紹介させて頂きました。

貴重な講演の機会を頂きましたことをKTCMの皆様へ深謝いたします。

◆講演Ⅱ：

擬態語による感性的な動くロゴマークのデザイン
（講師：機械工学専攻 山田 香織 助教）

【講演要旨】

近年、情報技術等の発達により様々なメディアが登場し、多彩な表現が可能となっています。例え

ば、インターネット上に見られるロゴマークやアイコンは動画像を伴って表現されることも増えています。そのようなロゴマーク等の動きについて、どのよ



うにすれば、人々の感性に響くような動きをデザインできるかについて研究を行っております。本講演では、デザイナーがもつイメージを反映させて動きを生成する方法と、それによって生成された動きのデザインについて紹介させて頂きました。

動きそのものというのは、実物を見せることなく文字や静止画で書き記したり伝えることが困難です。また、まだ存在していないものの漠然としたアイデアやイメージを直接表現するための方法もないのが実情です。そこで擬態語を介して、それらを表現し、同時に具体的に動きのデザインを生成する方法を提案しました（図1）。擬態語とは、「カエルが『ピョン』と跳ぶ」、「『カチカチ』に凍る」のように実際には音がしないのに、動きや状態を言葉の音で表した言葉です。新しい動きのイメージを表現するためには、新しい擬態語が作られると考え、擬態語を音韻情報（母音や子音など）によって分解し、それと似た既知の擬態語を通じて既知の動きを参照する方法を提案しました。既知の動きを合成することで新しい動きを生成する方法および計算機システムを構築しており、これらを用いてデザインされた新しい動きを紹介させて頂きました。

最後になりましたが、このような発表の機会を与えて下さったKTCMの皆様へ感謝申し上げます。

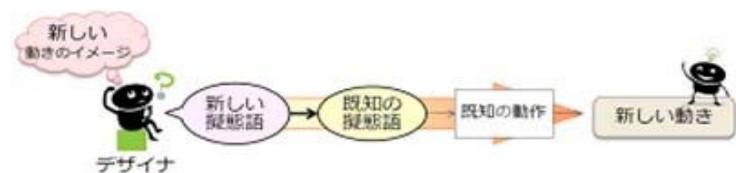


図. 新しい擬態語による“新しい動き”の表現

進藤明夫先生 米寿のお祝いの会 (報告)

進藤明夫名誉教授は、大正15年のお生まれであり、昨年(平成25年)米寿を迎えられたため、学生時代お世話になった1講座(材料力学研究室)OB有志で、ささやかではあるが、米寿のお祝いの会を開催させて頂いた。振り返ってみると、先生の傘寿のお祝いの会が7年前(平成18年)、受章お祝いの会が5年前(平成20年)のことであり、1講座OBが一堂に会するのはまったく久しぶりのことであった。世話役としての怠慢を恥じ入った次第である。

開催日時を11月23日(午後4時30分から)、場所を傘寿の会の時と同じレストラン“さくら”に決め、前回と同じメンバーに案内を出したが、日が良すぎたためか、当日既に予定を組んでいるOBが多く、残念ながら集まりはいまひとつであった。それでも、先生ご夫妻、元教員(横山民夫先生と三村耕二先生)、富田佳宏先生ご夫妻とOBを合わせて38名が参加して下さいました。

当日は1名の欠席者も無く、開始10分前には全員が会場に勢揃いしたので、驚くとともに、「さすがは1講座OB!」と感じ入った次第である。

当日の次第は以下の通りである。司会は小嶋弘行先生(M19)、山岡高士氏(M19)、松田光正先

生(M20)が分担して担当して下さいました。

◇お祝いの会の次第

1. 世話人挨拶 <藪 忠司(M2)>
2. 最年長OB挨拶 <横田二郎氏(M11)>
3. 乾杯の発声 <芦田紘毅氏(M12)>
— 祝宴・歓談 —
4. スピーチ
和田康裕氏(P14)、多田幸生先生(M23)、
大島 巖氏(M15)、三村耕司先生(大阪府大)、
横山民夫先生(元教員)
5. 祝電披露 山中榮輔氏(M15)からの祝電披露
6. 花束贈呈
<朝田誠治氏 (M35)、森善一氏 (M35)>

7. 先生によるご挨拶
8. 万歳三唱 <川越治衛氏、国光秀昭氏、西村泰幸氏(いずれもM18)>・・・西村氏によるトランプペット演奏の後、万歳三唱
9. お開きの挨拶 <富田佳宏先生(M16)>

このようにして、予定していた二時間余はアツという間に過ぎ去った。

進藤先生と奥様の益々のご健勝を祈念したいものである。

(文責 藪 忠司)



第158回「機械クラブゴルフ同好会(KTCMG)」開催報告

第158回 KTCMG を以下の通り開催しました：

- i. 実施年月日：平成25年10月22日(火)
- ii. 場所：つるやカントリークラブ(西宮北コース)
- iii. 参加者：9名
- iv. 成績：

成績	氏名	GRS	HDCP	NET	新HDCP
優勝	森岡宏次 (M ⑫)	86	12	74	8
2位	橋本晃一 (M ⑯)	105	28	77	23

台風が連続して通過する間で、当日はゴルフ日和に恵まれ、一日を楽しみました。

今回はまたもや12回生の1, 2, 3位独占となりました。おめでとうございます。

今回は従来以上に参加者が少なく総勢9名で、内12回生が5名を占めました。

次回からは12回生以外の方々に多くご参加いただけるよう、更に努力が必要と考えています。

今回で本年の予定は終了し、申し合わせ通り新HDCPを算出しました。

クラス会だより

M ⑪ 卒業50周年記念クラス会

ここ数年、毎秋神戸市内もしくは大阪市内で開催してきているクラス会を、本年は卒業50周年記念クラス会としてJR大阪駅北の「大阪弥生会館」において10月29日(火)午後開催し旧交を温めると共に、その後本年5月に開業した「グ

ランフロント大阪」をうら若い女性による案内で約1時間見物し、大阪の新しい街の風景を楽しんだ。50年前に卒業した際は46名であったが既に10名が他界し、残った36名の内の18名が今回のクラス会に出席し、今後とも毎秋神戸市内もしくは大阪市内



前列左より：馬場聡彦 赤川安徳 八馬厚雄 今野武則 中塚 勉
 中列左より：一法師功 森永興爾 八木洽一 河井徹郎 安永好夫 菅原孝幸
 後列左より：宮城礼二郎 竹中正彦 八島薫 加集慎二 永田健一 松居基夫 富岡禎夫

内で、従来通りの旧講座持ち回りの世話役で開催することを申し合わせた。

今回の出席者の近況報告を各人数行に纏めたもの及び欠席者の近況を同様にまとめたもの、並びにクラス会の様子と「グランフロント大阪」見物の様子を撮影して収録した CD をクラス全員に配付し、欠席者にも喜ばれた。

尚、平成3年より毎年春秋2回「宝塚クラシックゴルフ倶楽部」で楽しんでいるクラス内のゴルフ愛好者のコンペが、クラス会前日の10月28日(月)に、従来のように3組でなく8名の参加で開催され、年齢に似合わない元気を披露しあつた。
(平成25年クラス会幹事)

M⑭クラス会 (H25. 11. 14~15)

第9回M⑭クラス会が、平成25年11月14日~15日に、有馬の"ラコンテ有馬" (ダイハツ健康保険組合保養所) でにぎやかに開催されました。

今年は毎月の例会で山登りをしている第6講座の人達5名が、クラス会当日の朝、神戸元町を起点に再度山、六甲山を登り、そして有馬まで下りてきてクラス会に参加してくれました。

遠方から来られた方々 (関東2名、広島1名) を始め、20名集まってくれました。20名を超えるのは5年振りのことで、懐かしい顔が揃いました。

元ダイハツの白石さんに、ダイハツ健康保険組合の宿泊施設"ラコンテ有馬"をお世話願いました。今を代表する自動車産業の保険組合の施設だけあって、温泉も料理も素晴らしく、居心地は最高の設備でした。

皆で"有馬温泉"につかり、美味しい酒とともに"ワイワイ・ガヤガヤ"と大いに話が盛り上がりまし

た。話は現況の説明に始まり、政治の話、健康の話や身内の介護の話へと拡がりましたが、酒も食事毎も毎年、量が確実に減少しており、乱れる人がいなくなって来たのも少し寂しい気もします。

あくる11月15日は雨が降る生憎の天気でしたが、来年のクラス会にまた会うことを誓い合っ、ゴルフに行く者、山登りを続ける者や真っすぐ帰る者と分かれて行きました。ゴルフコンペは、10名の参加を得て「北神戸ゴルフ場」で開催し、今年東京から来てくれた萩野さんが優勝しました。

来年のクラス会は、平成26年11月6日~7日に今年と同じく"ラコンテ有馬"で開催する予定です。幹事は今年と同じく白石さんと白岡に、ゴルフ会の幹事を中田さんをお願いすることになりました。来年も、是非みんな元気にお会いしましょう。
(M⑭ 白岡克之)



(後列左より) 白岡、川本、酒井、久保、清水、萩野、西村、遠山、白石
(中列左より) 土井、中田、後川
(前列左より) 清野、阿部、藤岡、野間、下野、西嶋、久保元、米澤

M⑩クラス会 (H25. 9. 22～23)

M⑩の同窓会を9月22日～23日に有馬温泉＝兵衛向陽閣にて開催しました。

我々はミニ同窓会を含めると年数回、開催していますが、今回は卒業45周年記念として総勢20名が集い盛大に開催する事が出来ました。殆どがリタイアした年代とは言え、関東、四国、東海等の遠方からも参加してくれました。

前回2008年(卒業40周年記念)の三宮会食日帰りに比べ今回はユックリ温泉&料理&懐かしトークを堪能でき有意義でした。

物故者5名、行方不明5名を考慮した参加率は約55%で極めて優秀な学年と自負しています。

これも学生時代からの友情&絆を時代が流れて

も維持しているからでしょう。初日に再会するや否や、飛び交う『おいこらお前!』『元気?』『何しとん?』の遠慮のない会話は夜中まで続き、一挙に心身とも青春時代に戻りました。二日目はゴルフ組と有馬温泉散策ツアー組に分かれ、ゴルフ組は全員好スコア&散策組はガイド付き歴史勉強と・・・

それぞれ楽しめた様です。

最後に『来年は入学50周年記念としてやろぜ!』『そや生きてるうちにな〜』とハプニング提案も出る始末。

いやはや全員の老?パワーに圧倒された幹事でした。(笑)

(幹事;柳原 記)



後列左から：田畑、高橋、田中、
富田、大和、柳原
中列左から：中村、成松、西森
野崎、岡田、大橋、乙竹
前列左から：橋口、福永、石井
市橋、三浦、宮崎、水尾

【写真説明：入学時の写真と同配置で撮影 (before と after が比較できる為)】

M⑩クラス会 (H25. 10. 20～21)

M⑩クラス会は毎年開催して来ましたが、写真の撮り忘れなどの理由でホームページへの投稿は平成22年以来となりました。

平成23年は淡路島の神戸製鋼所の保養所で1泊の後、ゴルフ組と海釣組に別れ思い思いに楽しみました。

平成 24 年は神戸元町の牡丹園本館で宴会を開催、そして今年是有馬の「まなびや有馬」に集まりました。これも永久幹事を務めていただいている副島氏のおかげであり一同感謝しております。

卒業以来 43 年を経過しましたが、健康上の問題を抱えながらも一人も欠けることなく元気であることは実に喜ばしいことであります。

さて、今年は、当初関東、広島からの参加予定がありましたが、よんどころない事情で不参加となりながらも遠くは東海、四国、中国地方からの参加も合わせ 19 名が参加し、温泉街から少し外れた有馬にある神戸製鋼所労組の施設「まなびや有馬」で 10 月 20 日 18 時から 1 泊 2 日の経済的な会合となりました。



後列左より 平田 漆崎 重近
流郷 小林 平野
中列左より 末包 川上 高橋久
田中 大西 山田哲 副島
前列左より 井上 倉多 竹田
國光 以西 菅野

ゴルフ組や暗くなってから到着した連中はナビに無く、道が狭く、なかなかたどり着けず迷子になるなどハプニングがあり、その話題でもちきりとなり一同盛り上げました。しかし、宴会開催時にはなんとか参加者全員が集合し、但馬牛のしゃぶしゃぶに舌鼓を打ちながら、思い思いのスピーチで盛り上がり、スピーチが病気の話になるとみんな詳しく、的を得た野次が飛び交いました。夜の更けるのも忘れ、2次会は 11 時過ぎまで続き、楽しい一夜を過ごすことができました。

来年は岡山在住の重近さんが幹事を勤めていただけるそうです。きっと楽しい会になると思いますので、同期の皆様のご参加をお待ちしています。

(平田明男)

M(21)・P②合同卒業 40 周年記念クラス会 (H25. 11. 23)

この度、機械クラブ事務局からの提案ならびにご支援を頂き、M(21)と P②の 40 周年同窓会を有志にて開催いたしました。

名簿を頼りに、メルアドが判る人にメールにて案内をし、ねずみ算的に連絡者を増やし、メールと葉書で案内をし、約 100 人対象の中で 64 名に連絡をとり、38 名から返信を受け、22 名の出席の大盛会となりました。

一度は都合により途中で中止（理由は割愛）しましたが、40 年ぶりであり、開催の声も多くあ

り、再度調整して、11 月 23 日に新大阪ワシントンホテルプラザに場所を変えて 11：00～14：00 で開催いたしました。

40 年ぶりの再会の人も多く、一瞬顔を見ても誰か思い出せなかったのですが、名前を聞いて見直すと直ぐに昔の顔を思い出して、なるほど 40 年後の顔に成っていると懐かしく思い出しました。

5 分/人での持分で全員から 40 年間の状況報告をしていただき、昔懐かしい話、その後の活動報告や豪勢な趣味で満喫している話などを聞かせて

いただき、あっという間に2時間半が過ぎてしまい、まだまだ時間が欲しいところでした。

また、M(21)の中村敬一氏と同じ会社の高橋様とで、趣味の域を越えたセミプロ級の津軽三味線2

重奏ライブもあり、大満足の有意義な同窓会でした。来年以降も新規幹事にて有志同窓会を継続することを約束して散会しました。

(投稿者:不詳)



後列左から、大杉、金井、塗師、井元、栗本、中根、熊田、島津、竹中、北洞、中川
前列左から、末積、竹之内、小倉、杉村、玉屋、永安、杉原、神原、谷口、西尾
最前列は中村、高橋（中村氏のトヨタの知人で応援）

◆KTC 機関誌 78号掲載記事の概要紹介

KTC 機関誌 78号に掲載されている機械クラブ関係記事の概要は以下の通りである。詳細は機関誌をご覧ください。

1) 第2回理事代表会議事録

平成25年12月14日(土)13:30~14:45に開催された理事代表会議事録の紹介。理事代表会の後、“若手研究者は今”講演会と懇親会が開催された。

2) クラス会報告(3件)

i. P9クラス会・・・7名が参加し、6/8(土)に本館牡丹園で開催。

ii. M①クラス会・・・卒業60周年記念クラス会。8名が参加して9/26(水)に開催。明石海峡大橋見学後、舞子ビラ内にある「有栖川」で会食。クラス会は今回限り、とのこと。

iii. M③クラス会・・・11名が参加し、9/26(水)~27(木)に開催。神戸大学統合研究拠点を見学後、料亭「たむら」で会食。2日目は5名がゴルフを楽しんだ。

【機械クラブだより 第5号】

発行所：神戸大学・機械クラブ(KTCM)

発行人：機械クラブ会長 藪 忠司 (M12)

発行日：2014年3月1日

所在地：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学工学部内

URL：<http://home.kobe-u.com> / ktcml、E-mail：ktcm@kobe-u.com